

14.21  
88

大正  
七年度  
熊本縣水產試驗場業務工程報告



始





142  
88

大正六年  
熊本縣水產試驗場業務功程報告

熊本縣水產試驗場



142k-88

大正六年度熊本縣水產試驗場業務功程報告

目次

鯛沖取網試驗.....	一頁
竹鯉漁場探險.....	三
餌料蘆蓄養試驗.....	四
「コールター」染網試驗.....	九
鱈漁業連絡試驗.....	〇
乾燥機試驗.....	一
製造調査.....	四
真珠貝養殖試驗.....	四
鮎成長度調査.....	一六
指導.....	三
講習講話.....	三
海洋觀測.....	二四

大正  
7. 11. 16  
内交





# 大正六年熊本縣水產試驗場業務功程報告

## 鯛沖取網試驗

鯛漁業ハ有明不知火兩内灣及天草外海等何レノ沿岸ニ於テモ行ハレ其漁獲高ニ於テ鱚ニ亞グ重要漁業ナリト雖モ從來ノ漁法ハ一本釣延繩ヲ主トシ網漁具トシテハ桂網及ビ手繰網ノ行ハル、ノミニシテ或ハ網曳揚ニ適當ノ場所ヲ要シ或ハ磯邊ノ一小部分ノミニ使用セラル、ニ過ギスシテ漁場ノ區域自ラ局限セラレ幾多ノ不便不利アリ假令沖合ニ好漁場ヲ控フルモ徒ニ看過スルノ外ナキ遺憾アリ是ニ於テカ如上缺點ノ改良ノ目的トシ本年度鯛沖取網ノ試驗ヲ計畫ス抑モ鯛ノ沖取網ニ數種アリ規模ノ大小等自カラ差異アリト雖縣下ノ海況ト漁村經濟ノ状態トニ鑑ミ比較的小規模ナルモノヲ適當ナリト認め春季ニハ先づ瀬戸内海地方ニテ優秀ナル二艘五智網ヲ採用シ五月十五日夜天草郡大浦村沿岸鯛桂網漁場區域内數ヶ所ニ於テ試ミタリ然ルニ全方面ノ海底ハ一帶ニ「びわがら石」ノ一種夥シク散在シ操業ノ際網底ニ纏絡スルコト甚シク破傷亦頻發シ揚網ノ都度網具ノ整理修繕ニ多クノ時間ヲ費ス等到底望ナキヲ推斷シ翌十六日ヨリ御所浦村沿岸ニ轉ジ全廿一日迄五日間ニ亘リ繩島南邊ヨリ嵐口崎東方、元ノ尻、沖合ヲ經テ竹島、牧島、黒島附近ニ至ル海面ニ於テ前後廿一回曳網シ流速、水深、底質等何レモ操作ニ妨グナキヲ認めタルモ漁獲ハ十八日元ノ尻北東約一哩ノ地點ニテ約六百匁ノ鯛一尾ヲ得タルト一二



鳥賊、小饒ヲ得タルヲアルニ過ギズ漁期既ニ遅レ魚群ノ此附近ニ在ラザルヲ知り得タルニヨリ春漁ハ一先之レニテ中止シ秋漁期ヲ待テリ偶々八月末天草郡下浦村ノ當業者ヨリ郡衙ヲ經テ全村地先沖合ノ鯛沖取網試験方ヲ願ヒ出テタルニヨリ本場ハ春漁期ノ成績ニ鑑ミ九月末全地漁場ノ豫察調査ヲ行ヒ鯛去來ノ狀況及種類在來鯛釣漁業ノ狀況ヲ明白ニシ附近他漁業トノ關係ヲ豫察シ其ノ結果全海區、秋漁期ノ鯛ハ小形ニシテ春季試験ニ使用シタル四寸五分ノ大目網ヲ以テシテハ漁獲シ得サル可キヲ確認シタリ

是ニ於テ秋漁期試験ハ福岡縣箱崎地方ニ慣用セラル、魚取部五分、八分二様ノ一艘曳五智網ヲ使用スルコト、シ全地ヨリ作業巧熟ナル實業教師貳名ヲ聘シ十一月一日ヨリ下浦村字塔ノ崎ヲ根據トシテ所謂栖本灘一圓ノ漁場ニ試験シタルニ出漁毎日數貫乃至十數貫ノ漁獲アリ二十日ニ至ル間ニ於テ出漁日數十二日漁具使用回数九十四回ニシテ漁獲鯛ハ百餘貫ニ達シ當時其附近ニ於テ從漁セシ釣漁業、手繰網等ニ比シ數倍スルノ好成绩ヲ揚ゲタルヲ以テ試驗中附近各漁村ヨリ漁法ノ見習實習ノ爲メ集リ來ル者尠ナカラズ就中舊來ノ手繰網ヲ試驗網ノ構造ニ則リ改造シテ直ニ漁業ヲ開始スル等著シク當業者ノ注意ヲ喚起シ本試験ハ多大ノ効果ヲ收メテ漁期ノ終末ト共ニ十一月三十日ヲ以テ一先ツ終了シタリ然ルニ其後漁具ノ購入又ハ構成指導ヲ懇願スル者續出シ企業熱翁然トシテ起レルヲ以テ本場ハ即チ本試験ノ經過成績網具ノ構成使用法等ヲ平易ニ詳述シ振假名付單行本トシテ直チニ之ヲ沿海各地ニ配布シ

企業者ノ指針タラシムルト共ニ普ク縣下當業者ニ周知セシメタルニ更ニ各地ヨリ試験指導ヲ出願スルモノ多數ニ及ベルニヨリ本試験ハ來年度ニ繼續シ更ニ普及ニ努メントス

### 竹鯉漁場探險

竹鯉介ハ從來ト雖モ本縣沿岸多少ノ存在ヲ認メザルニアラズ既ニ專用漁業ノ中ニ編入シタル二三漁村アレドモ其漁法ハ單ニ大潮時干出セル干潟ヲ徒涉シ之ヲ掘採スルノミニシテ漁獲モ至ツテ少ク僅ニ自家食用ニ供スルニ過ギズ稍ヤ深所ニ至リテハ該介ノ有無スラ明カナラザリシナリ、然ルニ本邦先進地方ニアリテハ水深二三十尋ニ達スル場所ニ蕃殖セル竹鯉介ヲモ尙克ク巧ニ突捕スルノ漁法アリ漁獲物ハ之ヲ乾製シテ支那ニ輸出シ收益ノ大輕視スベカラサルモノアリ、海況是等各地ノ漁場ニ彷彿タル本縣内灣ニ對シ本場ハ必ズヤ此種漁業ノ有望ナルベキヲ察スル爰ニ二年アリ偶々本年三月前記鯛沖取網試験準備ノタメ天草郡大浦村ニ於ケル鯛漁業調査ノ際全地沖合水深十尋内外ノ場所ニ竹鯉介蕃殖スルモノト覺シク常ニ手繰網等ニ介殼ノ入ルコトアルノ事實ヲ聞キ相當ノ棲息アル可キヲ察知シ臨時ノ事業トシテ直ニ之ガ漁場ノ探險ヲ企テタリ、乃チ當時長崎縣大村灣ニ從漁中ナリシ廣島縣ノ漁業者一名ヲ聘シ四月二日ヨリ探險ニ從事セリ、果セル<sup>地全</sup>地々先小瀬附近ニ於テ忽チ濃密ナル蕃殖場ヲ發見シタリ、此時探險ニ用ヒタル突具ハ錘針ノ數二十四本アリ一回ノ操作三四分間ニシテ錘ニ通ズル竹鯉ハ百十餘個ノ多キニ達ス探險ニ從事セシ漁業者ノ如キモ稀ニ見ル密度ナリトシテ驚嘆シ地方人士モ亦意外



ナル遺利ノ開發セラレタルヲ喜ビ多大ノ興味ヲ以テ探險ノ進行ニ注目シ且ツ援助ヲ計リ全月四日迄三日間ニ亘リ漸次試錘ノ範圍ヲ擴張シ東方高目島西側ヨリ椏榔島、竹島、蛭子鼻北岸一二哩以内ノ海面ヲ經テ黒島附近ニ達スル水深八尋乃至十三尋ノ區域内ヲ普ク探險シタル結果小瀬、中瀬、蛭子鼻北方附近最モ濃密ニシテ集團的蕃殖アルヲ逐次ニ發見シ短時日ノ探險ナガラ既ニ此附近漁場ニ於テ本漁業ノ經營成立スベキ見込充分ナルヲ認メ得タレバ愛媛縣人小川某ハ早クモ其採捕製造ニ就キ地元漁業組合ト合意的契約ヲ交換スルニ至レリ本場ハ此期ニ於テ更ニ他地方ノ見込地ニ向ツテ探險ノ歩ヲ進メンコトヲ欲シタリシモ所定業務ノ都合ニヨリ他日ノ企劃ヲ期シテ一應之ヲ中止シ專ラ地人ノ從漁ニ委ネタルニ用器ノ單純ナルト漁法ノ簡單ナルトニヨリ之ニ從フ者續出レ操作ノ熟練ト共ニ自ラ新ニ漁場ヲ發見シタルモノアリ

益々其好望ナルヲ證シ來春漁期ニ製造設備ヲ完備シ組織的ニ漁業ヲ開始スルニ於テト多大ノ漁利ヲ收ムベキヲ確信セラル、ニ至レリ

#### 餌料飼養試驗

本試驗ハ前年度來ノ繼續ニシテ本縣在來ノ蓄養法ガ竹籠ヲ用ヒテ行ハル、ノミナルガ故ニ幾多ノ不便不利アルヲ遺憾トシ新ニ完全ナル蓄養法ヲ講究シ以テ餌料供給ノ途ヲ自由且擴大ナラシメンコトヲ欲シテ施行セルモノナリ

前年度ニ於テハ地ヲ天草郡牛深町地先築島ニトシ是ニ存スル天然灣形ヲ利用シ張網ヲ以テ其ノ一邊ヲ遮斷シ滿潮時面積約二千坪ヲ劃シ宛ガラ自然ノ状態ニ於テ多量ノ放養ヲ試ムルト全時ニ別ニ網地ヲ以テ籠型袋網ヲ構成シ以テ在來ノ籠蓄養ト放養量並ニ歩減率ノ多寡ヲ比較センコトヲ計リタリシニ何レモ經過ハ概シテ良好ニシテ大凡所期ノ目的ニ協ヒツ、アリシモ尙其ノ設備ニ幾分ノ改善ヲ要スルヲ認メタルト試驗酬ニシテ附近惡疫ノ流行スルアリ放養スベキ鱒ノ漁獲殆ンド中絶シタルノミナラス購客タル鱒漁船全地ヲ避去シタルニヨリ本試驗モ亦終ニ具體的々確ナル成績ヲ收ムル能ハズシテ閉鎖シタレバ更ニ本年度ニ繼續其ノ完成ヲ期シタリシニ本年度ニ於テハ不幸ニシテ本試驗ノ遂行ニ必須ノ機關タル試驗船第三不知火丸ノ運用不可能トナリシ爲遺憾ナガラ前年度ニ於ケルガ如キ規模ヲ以テ試驗スルコト到底覺束ナク餘儀ナク八九月中盛暑ノ候ニ於テ當業者ト共同シ牛深港内ニ於テ數回單ニ籠型袋網ノミヲ用ヒ僅ニ其竹籠ニ優レルヲ當業者ニ實見セシムルニ止マリタリ左ニ前年度來施設ノ概要ヲ録シ後日講究ノ資ニ備ヘントス

灣凹張切ノ方法ハ大体ニ於テ數年來靜岡縣田方郡内浦地方ニ行ハレツ、アル形式ニ則リタルモノナレ共彼地ト本縣ト自ラ状態ノ異ナルモノアリ就中彼地方潮汐ノ干滿ノ差ハ比較的寡少ニシテ蓄養場ハ内灣ノ砂濱ニ設ケラレハシこ鰻ヲ蓄養スルモノナルニ比シ本縣ニアリテハ潮汐干滿差頗ル多ク試驗地ハ最モ外海ニ接近シタル多岩ニシテ且海水ノ温暖ナルニヨリ俗ニかせト唱フル一種ノ珊瑚礁點在スル場



所ニアリ主トシテまいわしヲ放養スルモノナレバ是等ノ差異ガ張網ノ構成、海底整理ノ手段及ビ鯧習性ノ差異ニ基ク適否並ニ取揚ノ方法等ニ特別ノ考慮ヲ要スベキハ勿論當初之ヲ豫期シタルナリ即チ張網遮斷距離ハ四十五間(網長ハ五十間ヲ用ユ)水深張網位置ニテ四尋強(大潮時滿潮面)干滿差二尋ニシテ灣ノ兩岸ハ大小ノ岩礫起伏セルヲ以テ此部分ノ整理ニ對シテ最初最モ苦心ヲ拂ヒ突堤ヲ構築シテ之ヲ掩ハンカトモ企テタレドモ斯クテハ蓄養場内ノ海水ノ交流ヲ妨クベク現ニ靜岡縣ニ於テモ其ノ實例ヲ存スルガ故ニ之ヲ避ケ結局兩岸ハ傾斜ノ儘簡單ナル石疊ヲ敷キ詰メ岩頭其他ノ障物ヲ埋メ其上面ニ砂利ヲ盛りテ網裾ノ接着ヲ容易ナラシメタリ此方法ハ海水ノ交流ヲ妨ゲザルノミナラズ多クノ經費ヲ要セズ便益ナリシヲ信ズ

張網ノ構造ハ二様ニ試ミタリ即チ網地ハ綿糸六本合二十節ヲ用ヒ一ハ横目他ハ縦目ニ構成セリ而シテ横目ノモノハ右網地ノ長サ五十尋切ヲ横縫七反トシ其兩側ニ四尋乃至二尋ニ切裁セル網地ヲ縫合セ縦目ニ配置シ又縦目ノモノハ五尋半切五十反ヲ縫合セ其ノ兩端ノ岸ニ接スル部ノ網巾ヲ漸次ニ減ジ岸形ニ副ハシメタリ而シテ是等兩者ニ付使用ノ結果ヲ見ルニ概シテ縦目ニ構成セル方張網ノ保存上良好ナルガ如シ浮子ハ「もーそー」竹直徑五六寸長四尋ヲ二本宛結束シ密接シテ徑七分ノマニヲ麻製浮子網ニ配置シ沈子ハ沈子網一尺間隔ニ二三百匁ノ石ヲ結付ス凡テ張網ノ深サハ遮斷場所ニ於ケル大潮時滿潮水深ヨリ稍深ク構成スルヲ可トシ餘リニ狹キハ高潮時

網裾浮上ノ患アリ又之ニ反シ廣キニ過グルハ低潮時海底ニ垂伏シタル網地ガ海水ノ波動ニヨリ損傷セラル、不利ヲ存ス而シテ鯧ハ放養後馴性スレバ張網ニ接シテ水面ニ最モ近ク浮游スルニ至リ少シノ間隙アルモ之ヨリ脱出セントスル患アルモノナレバ張網ニ用ユルト同様ノ網地半切ヲ浮子網ニ取り付ケ之ヲ折り返シテ浮子竹ヲ掩ヒ以テ浮子下及浮子間ノ間隙ヲ塞ゲリ

籠型袋網ノ構造ハ一見蚊張ヲ倒ニシタル如キモノニテ綿糸六本合百掛二十節網地六反矧深四尋ヲ一邊トスル角形網トシ上邊ハ之ヲ長四尋直徑三寸位ノ竹四本ヲ方形ニ組ミテ製セル浮枠ニ取り付ケ下隅ニハ各四五百匁ノ石ヲ四五個宛配結シテ沈錘タラシメ之ヲ海面ニ浮ベ碇繫ス、上述ノ張網袋網兩法ヲ併用スル場合ニ在リテハ漁場ヨリ竹籠ヲ以テ運搬●來レル鯧ハ先ヅ張網内ニ放養シ二三日ヲ經過シタル後所要ニ應ジテ逐次之ヲ袋網ニ移シ更ニ一二日ヲ經テ鯧漁船ニ供給スルヲ最モ便且利アリトス即チ大正五年度ニアリテハ主トシテ此ノ方法ニヨリ八月六日ヨリ十日ニ亘ル四日間ニ三十餘石ヲ張網内ニ放養シ全廿日ヨリ廿四日迄ニ全部取揚ゲ鯧漁船ニ賣却シ九月九日漁獲セラレタルモノ五石ハ直チニ袋網ニ入レ全月十五、十九兩日ニ賣却ヲ試ミタリ、張網ノ内面ハ面積廣ク概ネ自然ノ状態ニアルモノナルガ故ニ放養後鯧ノ棲息状態ハ恰モ洋中ニ於ケルモノト等シク活潑ニ游泳浮沈シ斯ク盛夏長時日ニ亘ルモ尙衰瘦ノ跡ヲ認メズ步減率ノ寡少ナルハ一見之ヲ察スルニ足ル、當初當業者ハ其鯧ノ漁獲當時ト異ナラザルヲ目シテ却ツテ往々漁船ノ活間ニ移シタル後ノ斃死率大ナラザルヤヲ懸念シタルモノアリシ



モ實際使用ノ結果ハサル事實無キヲ證シタリ

八

袋網ノ蓄養鰻ハ張網ニテ慣レタルヲ移シタルモノナル時ハ殆ンド斃死スルモノナシト云フヲ得ベク又漁獲後直チニ放養シタルモノト雖モ斃死率ノ僅少ナル到底在來竹籠ノ比ニアラズ而モ其ノ容量ハ竹籠(長一丈二尺巾六尺深六尺放養量二石五斗乃至三石位)ニ比シ約三倍ニ達セシムルコトヲ得タリ張網内ニ放養シタル鰻ヲ取り揚グル方法ハ張網ノ外側ニ一種ノ敷網様ノモノヲ構ヘ其ノ部ノ浮子竹ヲ沈下スレバ鰻ハ張網外ニ脱出セントシテ敷網ニ入ルヲ順次袋網ニ移スコト、シタルモ寧ロ張網ノ一部ニ定設ノ取揚網ヲ布置シ常ニ若干ノ鰻ハ此中ニ在ラシムル如クスルノ便ナルヲ感ジ之ヲ考案作製シタルモ試験閉鎖ト共ニ實用ニ至ラズシテ終レリ、

本試験ノ概要前述ノ如クニシテ籠型袋網ノ輕便且ツ安全ナルハ兩年度ノ實驗ニヨリ既ニ當業者之ヲ覺知シ之ニ習ヒテ調製使用スルモノアルニ至レルモ張網ハ前年度試驗中一回暴風雨高波ノ際張網ノ一部ヲ損傷シ多少放養鰻ヲ逸散セシメタルコトアルト放養量頗ル多額ナルトニヨリ當業者種々ノ杞憂ヲ抱キ直ニ此方法ニヨリ經營スルモノヲ見ルニ至ラザレ共遮斷場所海底ノ整理ニ一段ノ注意ヲ拂ハンニハ敢テ危険トスルニ足ラザルヲ推斷シ得ベク他日必ズ實用セラル、時アルヲ信ズ

因ニ今後本縣ニ於テ此種ノ蓄養網ヲ構成セントスルモノハ其ノ網地ハ綿糸八本合十八節(試驗ニ供セシハ六本二十節)ヲ採用スルガ保存上宜シキガ如ク(試驗當時鰻ノ體長三寸内外體高五分體重三匁内外

ノモノ)又袋網ヲ以テノミ最初ヨリ蓄養セントスルモノニ對シテハ網型ヲ更ニ一層大ナラシムルヲ可トス可キヲ附記ス

### 「コールター」染網試験

縣下玉名郡長洲町附近多數漁業者ノ使用スル鮫鱈網ハ從來専ラ柿澁ヲ以テノミ染網スルノ習慣アリ普通該網一張ニ對シ澁液約二斗ヲ要シ毎月貳回染直シテ行フガ故ニ全漁期ヲ通ジ染網費漸ク嵩ミ漁業經濟ニ妙カラザル影響ヲ來スノミナラズ漁業者ガ自ラ柿澁ノ採取貯藏ヲ計ルニハ亦多大ノ手段ヲ煩ハシ殊ニ朝鮮出漁者ノ如キハ毎年之ヲ出稼先ニ運搬スルノ不便ヲ敢テシツ、アリ柿澁ニ代フルニ適當ナル經濟的染料ヲ以テスルコトハ該漁業ノ爲頗ル緊要事ナリ茲ニ於テ曩ニ本場ノ獎勵ニヨリ葦北郡日奈久附近ノ坪網ニ應用シ優良ノ成績ヲ示シツ、アル「コールター」ノ染網ヲ更ニ鮫鱈網ニ應用スルノ必要ヲ認メ再三當業者ニ勸說シタルモ本網ノ如キ潮流急速ナル漁場ニ布設スベキ漁具ニ對シテ「コールター」ハ網糸ノ膨大ニ基ク水流ノ抵抗及網ノ重量ヲ増加シ操業上不便ヲ來スベキノミナラズ其染色ノ漆黒ナルガ爲漁獲上ニ惡影響ヲ來スコトナキヤ杞憂シ自ラ進ンデ之ヲ試ミントスルモノナカリシガ故ニ前年度末本場ニ於テ鮫鱈網一張ヲ新調シ先ヅ「クレオタール」ヲ以テ染網シ長洲町ノ一當業者ニ委託シテ本年漁期ニ引續キ之ヲ試用セシメンコトヲ期セリ然ルニ漁況ノ關係上在莠時ヲ過シ八月下旬盛夏ノ交遂ニ直接場員ヲ遣シ長洲町沖合ニ於テ操業セシメタルニ水流ノ抵抗取扱ノ難易ニ就テハ在來ノ澁染網

九



ト敢テ軒輊アルヲ認メズ寧ロ網糸ニ浮泥ノ附着尠キト水分ノ浸潤セザル點ニ於テ優レルヲ感知シタリ當時同地沿海ニハ水母ノ浮流夥シク漁獲物ノ關係ヲ查敷スベキ適當ノ漁場ニ出漁スルヲ得ザリシヲ以テ爾後之ガ研究ハ再ビ當業者ニ托シ更ニ十月上旬場員乘組實地試用ノ結果漁獲物ニ於テ在來ノ漁網ニ比シ何等缺陷アルヲ認メズ往々ニシテ却ツテ多獲ノ成績ヲ示シ當初當業者ノ杞憂ハ漸次消除セラレルニ至リ玉名郡及長洲町ニ於テハ來年度補助金ヲ交附シテ該染網法ノ普及ヲ企劃スルコト、ナレリ因ニ本試驗ニ用ヒタル鮫鱈網ノ染網ニ際シテハ壓搾器ヲ準備セザリシ爲メ染付後ノ餘液ハ僅ニ手搾ヲ以テ除去ニ努メタルニ過ギズ從テ「コールター」ノ容量三斗ヲ費シ乾燥ニ意外ノ長時日ヲ要シ約一ヶ月ヲ過ギテ漸ク使用シ得ル程度ニ達シ網ノ重量ハ素網ニテ六貫八百匁ナリシモ染網後約倍加セルノ状態ナリシト雖モ壓搾ヲ充分ナラシムルニ於テハ用量、乾燥日數及網重量ヲ減ズルコト明カナリ

鰹漁業連絡試驗

本省ニ於ケル府縣水産試驗場長會議ノ決議ニ基ク漁業連絡試驗トシテ本場ハ前年度迄鰹漁業ニ就キ實行シ來リタルモ本縣鰹漁業ハ最近頗ル不振ニ陥リ漁業中絶ノ状態トナリタルニヨリ本年度ヨリハ新ニ鰹漁業ヲ以テ山口、島根、鳥取、京都、福井、石川ノ各府縣ト連絡試驗スルコト、ナリ本年度ニ於テハ七月廿七日以降十一月十三日ニ亘ル漁期間漁船ヲシテ本省ノ指定スル事項ヲ調査セシメ之ヲ集纏整理シテ漁業表及漁場圖ヲ作製シ本省へ報告シタルガ本漁業ニ關シ幾多ノ資料ヲ得大正七年度本場自ラ

實施スベキ試驗ノ遂行ニ多大ノ參考トナレリ

乾燥機試驗

本試驗ハ前年度來ノ繼續事業ニシテ小鯛、蝦、小鯛等ノ乾燥ヲ目的トシ宮崎縣下福島村地方ニ行ハルル小鯛乾燥機ニ則リ本場考案ノ下ニ築造セリ、機ノ形式ハ熱氣式ニシテ簡便ヲ旨トシ原料其ノ他ノ關係上天草郡維和村字千束山崎若松ノ住宅附近ニ築設ス即チ四月一日工ヲ起シ四月廿九日竣成セルニ依リ五月中旬空焚試驗ヲ行フ事二回昇温並ニ保温ノ實驗ヲナセシニ結果良好ナリシカバ爾後七月上旬迄ノ間ニ於テ小鯛及ビ赤蝦ニ付乾燥試驗ヲ行フ事十回此間往々機ノ破損等アリ充分ノ試驗ヲナス能ハザリシモ經過概シテ良好ナリ七月五日煙道ノ鐵管ニ損所ヲ生ジタルヲ以テ試驗ヲ中止セリ

構造ノ概要

地盤ノ構造 地下約一尺五寸ヲ掘リ下ゲ礫石ヲ混シタル粗ナル「コンクリート」約三寸ヲ施シ臺石ヲ敷込ミ更ニ二寸ノ密ナルコンクリートヲ以テ固メタリ、臺石上ノ四個所ニ煉瓦一枚丈ケ空際ヲ置キ空氣對流ニ便ス

焚口及煙道 焚口ヨリ焚ケル火力ハ煙道ニ依リテ乾燥室内ニ導カレロ字形ニ屈曲シテ焚口ノ側ニ設ケタル煙突ニ出ズ焚口ハ鑄鐵製ニシテ煙道ハ徑九吋半ノ鐵管ニシテ焚口ヨリ三尺ノ間ハ鑄鐵製其ノ他ハ鋼鐵製ナリ乾燥室内ノ地盤上ニ煉瓦ヲ積ミ重ネテ枕トシ之ヲ支ユ



乾燥室圍 周圍ハ煉瓦作りニシテ内法長サ九尺巾四尺高サ臺石上ヨリ七尺ナリ但シ一面ハ木扉ヲ取  
リツケ乾燥棒ノ挿挿ニ便シ他ノ三面ハ内面ニ石灰ヲ塗レリ

天井ノ構造 天井ハ屋根形トシ杉板厚サ六分ノモノヲ以テ葺キ二寸角ノ支柱杉材八本ヲ用ユ何レモ約  
廿三度ノ勾配ヲナシテ上向シ中央一尺角ノ排氣口ヲ備ヘ上部ニハ蝶番付排氣板ヲ取り付  
ケ含濕空氣ノ排出ヲ加減ス

連竈餘燭 熱源ハ焚口ニ焚ケル石炭ノ火力ノ外乾燥室ニ接セル連竈ノ餘燭ヲ室内ニ導キ同一煙突ニ  
排出セシム

煙 突 下部ハ煉瓦作りトシロ字形鐵管及連竈餘燭ノ鐵管上下シテ之レニ通ジ上部ハ土管トシ高  
サ計五間

棚 椽 徑三分ノ角鐵ヲ以テ八段ノ棚ヲ作り乾棒ハ交互ニ四個及三個ヲ並列ス椽ノ總數二十四個  
ヲ容ル

乾 棒 ハ長四尺巾二尺深サ三寸トシ木製ニシテ底部ハ金網トス  
築造 費、四百拾四圓貳拾六錢

試驗ノ經過

第一回 五月二十三日

原料小罇貳斗壹升、製品壹斗六升、焚火二時間、石炭乾燥室二十一斤、連竈二十斤、計四十一  
斤、外ニ松薪三把

第二回 六月二日  
原料小罇六斗二升、製品五斗八升、焚火三時三十五分間、石炭乾燥室五十二斤半、連竈四十四  
斤、計九十六斤、外ニ松薪二把

第三回 六月五日  
原料小罇四斗五升、製品四斗三升、焚火二時三十分間、石炭三十六斤、松薪一把

第四回 六月八日  
原料小罇一石六斗八升、製品一石六斗、焚火六時四十五分間、石炭九十斤、松薪一把

第五回 六月九日  
原料小罇八斗二升、製品七斗七升、焚火六時五十分間、石炭八十四斤、松薪一把

第六回 六月十三日  
原料小罇八斗五升、製品八斗、焚火五時間、石炭六十五斤、薪一把

第七回 六月廿八日  
原料赤蝦二石三斗五升、製品二石三斗五升、焚火九時間、石炭九十五斤、薪一把



第八回 六月三十日

原料赤蝦四斗三升、製品三貫五百匁、焚火六時三十分間、石炭九貫四百匁、薪一把

第九回 七月三日

原料赤蝦三斗六升、製品三斗六升、焚火五時間、石炭四十六斤、薪一把

第十回 七月四日

原料赤蝦壹石壹斗、製品壹石壹斗、焚火十時間、石炭九十八斤、薪一把

### 製造調査

凡ソ事業ノ進歩ヲ圖リ發達ヲ促サント欲セバ必ズ先ヅ之レガ現状ヲ詳ニシ内容ヲ明カニセザルベカラズ縣下水産製造ノ業未ダ頗ル幼稚ニシテ前途尙ホ大ニ餘地ニ富メリ之レガ改善發達ニ關シテ本場ノ施設ニ待ツベキモノ頗ル多キヲ信ズ即チ先ヅ斯業ノ現状ヲ詳ニセント欲シ市、町、村等ニ就キ之レガ概要ヲ調査セリ各種事業ノ技術的方面販路其他經濟的方面等ニ至リテハ逐次調査ノ歩ヲ進メ勞々以テ本場施設事業ノ參考ニ供シ斯業ノ進歩ヲ企圖セントス、本年度調査セルハ各種製造品ノ産額製造ノ時期主ナル製造業者氏名等ナリ

### 眞珠貝養殖試験

本試験ハ大正三年度ヨリ繼續シ天草郡富津村龜浦丸島ノ周圍ニ於テ施行シツ、アリ即チ大正三年度及五年度ニ各々壹萬個ノ種貝ヲ蒔付ケ大正五年度ニ於テハ大正三年度蒔付貝百個ニ對シテ擬珠挿入施術ヲナシ經過概シテ良好ナリシカバ大正六年度ニハ更ラニ種貝壹萬ヲ蒔付ケ八十四個ニ擬珠ヲ挿入シタリ種貝ハ十一月初旬長崎縣大村灣渡邊眞珠養殖場ヨリ二年貝及三年貝合セテ壹萬個ヲ購入移植セリ大村灣ニ於テハ此年一月ヨリ三月ニ亘リ赤潮ノ大被害ヲ受ケタルニ依リ種貝頗ル逼迫シ壹個代金壹錢宛ヲ以テ辛ウシテ購入スルコトヲ得タリ擬珠ハ大正三年度蒔付貝五拾個、大正五年度蒔付貝五拾個計百個ニ對シテ挿入シタリシモ各々八個宛ハ放養前吐出シタルヲ以テ結局各四十二個合計八拾四個ノ挿入ヲ施シ放養セリ母貝ハ何レモ八月二十二日之ヲ採捕シ翌二十三日午前施術ヲナシ午後三時半放養セリ本試験着手以來蒔付貝ノ狀況ハ之ヲ詳ニスル能ハザルモ大正五年度蒔ノ分ハ大正三年度蒔ニ比シテ經過良好ナルガ如ク往々稚貝ノ着生セルヲ認ム擬珠挿入貝モ亦健在ナリ八月二十四日測定セル眞珠介ノ大サ左表ノ如シ

大正三年度蒔付貝				大正五年度蒔付貝			
殼長	殼高	重量	殼長	殼高	重量	殼長	殼高
一、四〇	二、五〇	一五、〇	二、〇〇	二、二五	一〇、五	二、〇〇	二、二五







綠川		捕獲月日	捕獲場所	体長	体重
全	全	五月十七日	上益城郡宮内村大字小鹿	四、五〇	八、二
全	全			四、八五	一三、二
全	全			四、九五	一三、二
全	全			五、三五	一五、〇
平均	全			三、五四	六、九五
全	全			四、〇〇	九、〇
全	全			三、六〇	七、〇
全	全			三、四〇	六、五
全	全			三、三〇	五、五
全	全			三、二五	六、〇
全	全			三、五〇	七、〇

球磨川 (其二)		捕獲月日	捕獲場所	体長	体重
全	全	五月二十一日	八代郡宮地村大字古籠遙拜堰	三、八〇	八、〇
全	全			三、七〇	八、〇
全	全			三、五〇	六、五
全	全			三、五〇	六、〇
全	全			三、四〇	七、〇
平均	全			五、三五	一九、七八
全	全			五、四〇	一八、〇
全	全			五、二五	一七、〇
全	全			五、一〇	一六、〇
全	全			五、四五	二〇、〇
全	全			五、二〇	一九、〇



菊池川 (其二)		捕獲月日	捕獲場所	体長	体重
全	全	五月十八日	菊池郡花房村大字廣瀬	四、六〇	九、八
全	全			四、三〇	七、二
全	全			四、二〇	七、六
全	全			四、〇五	七、一
平均	全			四、七五	一三、二五
全	全			三、七〇	六、〇
全	全			四、一五	一〇、〇
全	全			四、四〇	一一、〇
全	全			四、九〇	一五、〇
全	全			四、九〇	一五、〇
全	全			五、〇〇	一五、〇

菊池川 (其二)		捕獲月日	捕獲場所	体長	体重
全	全	五月十八日	鹿本郡川邊村	五、二五	一五、〇
全	全			五、一五	一五、〇
全	全			五、〇五	一五、五
全	全			五、〇〇	一五、〇
平均	全			四、九〇	一二、〇
全	全			四、八〇	一二、〇
全	全			五、〇〇	一二、八
全	全			四、七〇	一〇、〇
全	全			五、一〇	一三、四
全	全			五、〇〇	一一、九
全	全			四、七五	一〇、二



全	全	全	全	全	全	全	全	三、六〇	三、九
全	全	全	全	全	全	全	全	三、三〇	三、〇
全	全	全	全	全	全	全	全	三、一〇	二、一
全	全	全	全	全	全	全	全	三、一〇	二、四
全	全	全	全	全	全	全	全	三、〇〇	一、八
全	全	全	全	全	全	全	全	三、〇〇	四、七
平均								三、六二	

以上ノ外七月中岡山醫學專門學校諏訪博士ノ來縣ニ際シ共ニ縣下ニ於ケル海人草ノ分布調査ヲナシ十一月月上旬ヨリ十二月上旬ニ亘ル約一ヶ月間本省ノ調査ニ隨伴シテ縣下有明不知火兩沿岸淺海ノ利用ニツキ踏査研究スル所アリ尙又或ハ當業者ノ懇請ニヨリ各種養殖場適否調査ヲナシ或ハ機ニ臨ミ一般漁業ニツキ基本的調査ヲ施行セリ

指導

文書其他ノ方法ニヨル質疑ニ對シテハ都度直ニ適當ノ解答ヲ與ヘ以テ當業者ノ便ヲ計リ尙特ニ蝦蛄養養蠶、蛭、蛤、養殖、海藻利用加里工業等ニ付テハ企業者ノ乞ニ應ジ各數回實地指導ヲナシタリ

講習講話

八月二十四日ヨリ廿七日迄四日間葦北郡佐敷町主催ヲ以テ全町計石小學校ニ水産講習會ヲ開設シ講師ノ派遣ヲ願出デタルニ因リ初日杉浦場長ヨリ精神訓話ヲナシ引續キ漁撈ニ關シテハ黒田技手製造ニ就キテハ阿部助手ヨリ土地ノ狀況ニ鑑ミ各適當ナル講演ヲナシタル外各地ヨリ懇望ニ依リ水産ニ關スル指導講話ヲナシタル主ナルモノ左ノ如シ

月日	場	所	主	題	講演者
八月二十日	玉名郡水産聯合會		地先海面利用		杉浦場長
自十二月十一日 至全十二月十二日	天草郡漁業組合理事講習會		漁業組合施設事業		全
自大正六年 自二月十二日 至全十四日	農事試驗場 <small>産業技術員 養成講習會</small>		一般水産業ニ就テ		全
大正七年 三月四日	宇土郡松合村		朝鮮出漁者指導		全
自三月十九日	玉名郡長洲町		全		全

尙又本縣第一、第二兩師範學校ニテハ本年度ヨリ新ニ水産科ヲ課スルコト、ナリ大正七年二月開講其教授方ヲ本場ヘ依頼シ來レルヲ以テ爾後場員ヲ派シ出講セシメタリ



### 海洋觀測

天草郡富岡町地先ニ於ケル定地海洋觀測ハ漁業基本調査ノ一部トシテ水産局ノ指定要項ニ據リ多年毎日之ヲ施シ其ノ成績ハ毎月之ヲ水産講習所ヘ報告シツ、アリシガ本年本省ニ於ケル水産協議會ノ協定ニ依リ鯷漁業連絡調査ノ爲メ時期ヲ定メ漁場ノ横斷海洋觀測ヲ施行スルコト、ナレルヲ以テ富岡ニ於ケル定地ノ觀測ハ其回数ヲ減ジ毎月六回トシ左ノ區分ニヨリ毎月一回横斷觀測ヲ實施シ鯷漁業ト海洋トノ關係其他ニツキ必要ナル調査ヲナシ之ヲ水産講習所ニ報告シタリ

期	間	觀	測	線
四、五、六月		富岡、權田鼻間		
八、九、十月		富岡、樺島間		

大正七年十月一日印刷  
大正七年十月五日發行

## 熊本縣水產試驗場

熊本縣熊本市上通町四十二番地

印刷者 秋吉亮橘

熊本縣熊本市上通町四十二番地

印刷所 九州日日新聞社印刷部





終